

文明
開化

内外事情

初編
中

71
3482
2



池清

(2)
門ヲ
3482
巻 2

開文
化明
内外事情卷之二



池清

○郵便の事

郵便ゆうびんとは飛脚ひしやくのありしごとく現今いま日本にっぽんにて行おこなはるる
郵便ゆうびんの法ほうも矢張やじやう西洋せいやうの仕方しやうほうに倣なまふたるとも
のあり西洋せいやうよりても近年ちかごろより日本にっぽんのありしごとく
の飛脚ひしやくの様ようある法ほうゆゑ其價そのねも高たかく不便利ふべんりのあ

東江學人 纂輯

昭和十三年
二月七日
東京

とも多ううしぐロウランド。ベルとつづる人の
 考つて現今の如く便利の法を發明したり此
 法ハ蒸氣船電信機あとの發明と同様よ人の賞
 譽も新發明の一あり其起原を尋ねるゝ「ロウラ
 ント。ベルとつづる人一日歩行せしむ或る所の
 女子其兄のつづきつゝ旅行せんとするゝ當り
 留守ちゝ數々其安否を便りせんあゝと願ふ
 も手紙を送れむ其賃錢のめゝ多をあらそひ貪究

の者あれむ如何ハせん」と嘆きしむ不圖一工夫
 を考つしづゝ兄と約束して政府を欺しんと謀
 ると見たる其仕方と兄より手紙を送りたると
 見其上封を見れば既に不事あるあり明あるゆ
 へ事と托し彼是し其手紙を請取らば賃錢を
 拂しぬ工夫あり「ロウランド」これを見て其
 謀る所の惡事あるも元困究よりむらりたる
 事して其情もあらむとむづゝ畢竟飛脚の仕法の

一 俗しき故に之を改革し萬民の利
 益を起さんと深く工夫をあらし今の取扱方を
 發明しられども猶りらくとやうしき云ふ者
 ありて定まらざりしつひに彼の千八百三十
 九年八月令より四十四年前議事院にて之を採
 用し其翌年より施行せたり此法一たび行われ
 ば其運送の便利ハ元より國の端より一
 一送るも一日ハうらぬ程よく如何ある田

舎までも手紙
 の達せぬ處ハ
 あき様と成れ
 れバ人々其便
 利を喜むる者
 ありきのみあ
 らば下々の者
 に至るまで皆

郵便の様子



手紙を認めんと欲し銘々文字を學ぶ様あり
 手紙の贈答もよりより増したるに口ウランド
 此れをわける國益と起したるゆへに其後
 四十六年より至り國中有志の輩相議して其勲勞
 を謝せんと各々金を出し四千兩許を贈りたり
 其後よりいづれ盡力して諸國への飛脚の法則
 を改められバ政府より亦その功勞を賞し大
 身分を進めたり○西洋諸國より飛脚のあり

ハ政府より役所を設けて取扱ひ國內を元より
 外國へ送る書翰も秒々取扱ふありハ嚴禁
 して之を犯さざる過料を取上るの法あり
 故に書状を送らんも現今日本よりゆき
 通り政府より郵便切手より大さ七八分位の
 切手をつくり定價を以て一町おくる之を賣捌
 く店より一町毎に書状を差入る箱ありゆ
 一諸人其の切手を買ひ書状を送る路の遠

近し書翰の重き輕きよりしてそれの切手と
 上封の端に張て郵便箱に入らば直ぐ郵便役
 所より之を取集め國內へもちろん世界中の
 どの處までも相違なく届くものあり其便利
 なるは元より政府の利益とあるものと夥し
 事よて英吉利よても年々此飛脚賃の利益凡そ
 千三百五六十万兩余ありしや

○諸雜稅の事

今上りし所の諸稅の外に國內の産物より收
 むる稅あり其稅も亦々輕重ありて酒烟草の
 如く騎侈りありは稅重し其外茶屋料
 理屋馬車屋芝居等の類は官府の免許を受けて
 別段の運上を收むる高賣あり又其外奴僕を召
 抱ひ犬馬を飼ひ車を所持する等皆夫々の稅の
 り但し犬を飼ふを元々玩弄するのみあ
 らば市中を汚し時よりして人を害するあ

つる少く漫く犬を飼うざるの方略ありと其外
瑣細の課税數多りて仮令聊たりとも彼の税
を取て此税を取らぬとつふありあり去りし
其内にも今日活計に必用ある物ハ税軽く驕侈
に屬するものは税重し

○會社の事

會社と仲間のありて西洋にて人々力を
合せ心と同じてとも國益と謀る風ゆつ一人

の力にて企て難きありハ皆仲間を組み社を結
て資金を募り其事を共に之を商人會社とい
ふ斯く會社を結ぶるは官府に願ひ其資金
かけの引當を為し免許を受て金を集るあり其
集方を會社の資金十萬兩入用ありて手形を十
萬枚つくり一枚を一兩づつして何國の人にて
も賣渡をあり此手形を買めて所持するれば
ハ會社より年々四五分の利且を拂ひ其上商賣

の利潤多ければ尚余分の利足を拂ふあり又金を急ぐ集りしとき時ハ一兩の手形を三分貳朱位よりあるも時ハ此手形を所持の人にて金子の入用ある時ハ相對して此手形を賣買すべし其會社の繁昌して多分の利足を拂ふ手形を元金一兩の時と一兩一分余の賣買あるよし萬一此會社の分散する時を政府より其引當の品を賣却て其手形を買ふたり者も拂ふゆへ

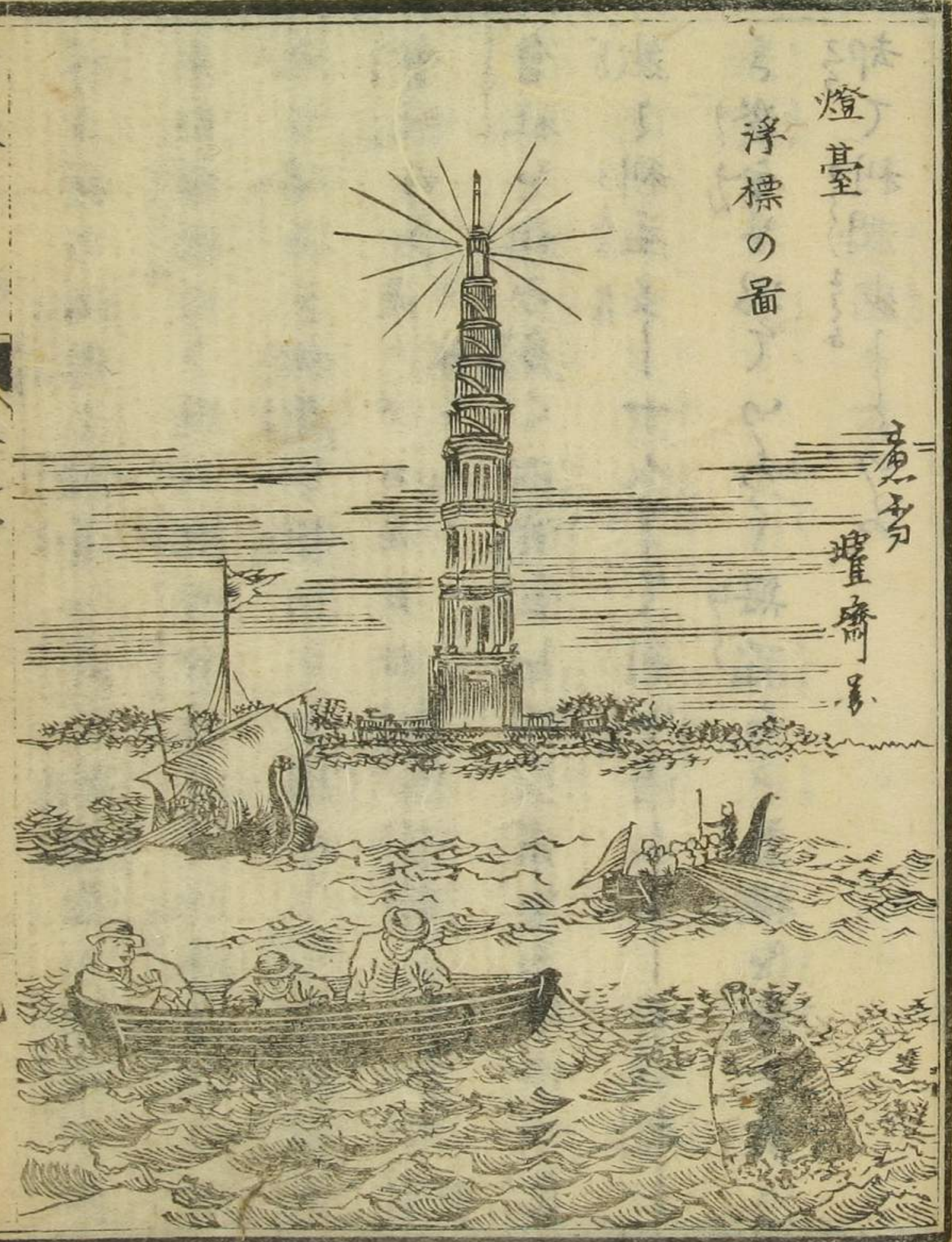
手形を買たる者も仮令會社のつぎ進むとも損毛あるあり此會社もつりくつりて或ハ傳信機の會社つり或ハ蒸氣車の會社つり或ハ兩替會社受合會社瓦斯燈會社等つり其大略を次に論むべし

○受合會社のうちにも種々つりて或ハ家宅或ハ船中或ハ蒸氣車等の別つり家宅受合會社ハ毎年そむくの金を此會社に納むる時と若し

其家宅火災等の如き変事有りて損失する時
 會社より之を修復するありゆへ無事の年々
 皆會社の利益あるも若し大火事等して數軒
 損失する時と會社の損毛ありはあつと故に此
 會社より多く火消を抱え出火の直に此
 人足を出せしめり○船中受合會社も大抵家宅
 受合會社と同様にして船を造りたる時此會
 社より其船の丈夫あり弱きと見定め或ハ

二十年よりひと十五年の間の受合をあり其年
 限中何程づの金と會社に納むべきと萬一其
 年限中破船するも會社より半方より三分
 の一との約定通其損毛を船主に納むるあり又
 蒸氣車も船中して積荷の受合をあきあり
 何れ仮令日本より英吉利まで百万兩かけの
 荷物を送る時此會社より千兩を納め置けと萬一
 破船して荷物を失ふとも會社より三十万兩を

償ふしつゝ或ハ二千兩と納めあげど五十万兩と
 償ふしつゝ皆夫々の約定とあそしつゝ此會社して
 ハ數多の受負とあそしつゝ折節ハ大金と出まお
 とりまじも双方入合まじど随分利益よりり
 又受負と頼む方りても平常少々づゝ余分の金
 と出し置く萬一家と焼き船と破り荷物を失
 ふとも身上と威を程のあともあく至極し仕
 方あり又救船の會社りり又淺洲や暗礁あとの



燈臺 浮標の番

燈臺 燈臺

舞とあそび様の見世もあそび持と時とを十分かせ
 び又遊ぶ時とを十分かせふ風あり是人間の氣
 かりを大抵さへうのりもゆゆ只氣を遣ふ
 ちうちうちうち樂もせざれば遂に虚弱あり身体
 害ありあそび皆人の知る所ありしうて學問とあ
 一物を考究する等に至ると別して然る故に折々
 と心を慰むるを一一飯令ハ美食を求め輕衣を着
 るが如きは皆人々の心と任せて勝手と出来る

あそびども或ハ築山と築き泉水と流し玳瑁銘木
 を集めて目と慰むる等の如きは一人の力
 と及ぶづとくゆゆ故に之等を政府より夫々
 世話とやと萬民の都合とす所と撰み宏大美麗
 の園を設け數種の名花を集め或ハ築山と築て
 瀑布と落し或ハ流川を引き景色勝麗の場所と
 作り上王皇より下諸人に至るまで皆茲に來て
 共く心を慰め目を樂よしむるあり日本よりても

公園の畵



令般淺草芝深川八幡其外萬人の輻湊する所を公
 園と定めらるる政府より御世話有りて萬民の樂
 し場所を拵ひらるる實に難有ありありはや
 然る上ハ士農工商とも平常ハ夫々の家業を勉
 勵勞作し無益の金錢を費さありあり家々を富
 國をゆきゆく而て一ヶ月と三度あるのハ四
 度の休日を立て主従丁雅に至るや皆公園に
 遊歩し氣を慰むる是真に心の保養ありて百

薬の長とつふごと

○國債の事

國債とも國の借金とつふあつて萬民より借
 たる政府の借金をつふあり現今と日本政府よ
 も内外の債りて判然と御沙汰と相あり貸主
 つも夫々證券を渡し若干の利足を下され追々
 元利とも御返却とあるごとく實に公明正大の
 ありあり是迄ハ政府も諸藩も富商大

賈す借財一或は百姓に用金あつて高割を
 以て申付るあは萬民の財を私有せしあはとも
 最早右の如き風儀を決してあはあつて西洋
 諸國とも太平無事の年と大抵其年の年貢とて
 一年の入費を仕拂ひ平均に至るを常とせし
 も若し戦争とて起り非常の入用ある時と是
 非とも金を募ると得ざる時ハ政府より國
 内命令を下し手形を出して萬民の金を借るよ

とらむも大商人は高を指して申付ゆゑハ
石高割附もあどのみちあく只人々の意に任
せて貸出を好む者も一好まざるも出
まゝ及ど彼之を借るゝ仮令バ十万兩入用あま
ハ手形十万枚を作り一兩出せるもけし一一枚
を渡し百兩貸さんときる者も百枚を渡さあ
り金を出し得る者も此手形を所持せしむ年々
三四分をもち百兩に付三四兩の利足を得る

と以て強て元金の返済を願ひ又此手形ハ紙
幣も同様相互に賣買をせしむ正金を所持する
と大なる異あり又政府も古より愈かりて
其高愈増し随て利足も愈加り次第に相續て遂
に驚ぶる大借金とありありはまも此國債
の法ハ決して破るゝありあり若し破るを國中
の債主から争乱を起さば又無事の年よ
ハ夫々工夫をありて國債を返却せしむ大

減るありけり其元金を返す國の手形ハ私に賣
買する元金より高く荷蘭の百兩の手形ハ百
十兩位の賣買あり是ハ利足も高く且時々政
府より元金を返すあり又西班牙國の千兩
手形ハ僅に五十兩位の賣買あり西班牙政府
の貧乏あり推てあるべし日本の國債も大
ありしりも西洋諸國に比ぶるに余分ありし
りふつりしに殊に確然とせざる規則も立
たり

以後政府に御用立る金ハ譬如何程ありしも更
し心配あり且盜難火災の憂あり年々夫々の利
足を受け又返却し相成ハ實に公明の法あり
ずや

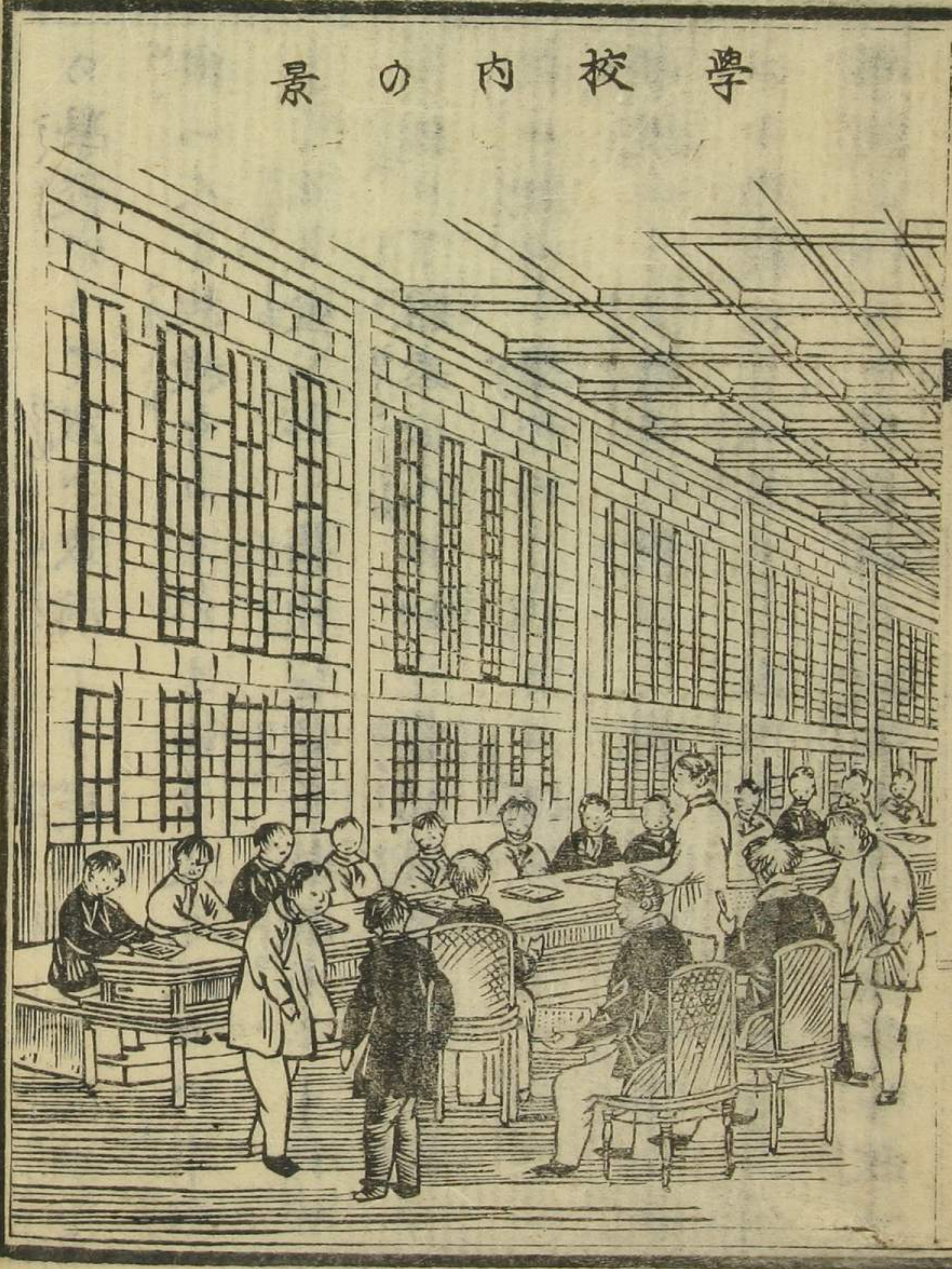
○學校の事

凡人と生じて文字とありざる程の不自由ハあ
り且文字を知りざる物に道理と暗く遂にハ
政府の法を犯し罪あり入事たり或ハ旧來の

慣る固陋一日新の便利あるを知るの知覚もあ
 さゆへ遂る貧究ともあつるゆへ真の學校ハ文
 明開化の登るの階梯あり故に近年日本國中一
 普く學校を建させられ厚く御世話ありありあ
 れバ人々早く文字を習ひ物の道理を識り西洋
 の如く自由安樂と謀るべし西洋各國より都下
 村落に至るまで學校の無き所ハあく或ハ大學
 校中學校小學校醫學校あり其内にもややく種々

の學校ありて或ハ政府より建て教師に給金と
 與一人に教授するも亦もあり又人々の申合
 して互に金を出し學校を建て教授するも亦も
 り或ハ下雅奉公人の如く晝間用事のりる者一
 夜斗教ゆる學校あり或ハ日曜日をも教ゆる
 學校あり又替者に教ゆる所あり或ハ啞聾を教
 ゆる學校あり人生きて五六歳より男女とも皆
 學校に入るより自國の語法文法書法等を教へ

學 校 内 景



旁らゝ算術等と學まなばゝむ夫それより次つぎで自國こくの地
 理り歴史しと熟諳じゆくぜゝり究理きうり天文てんぶんの初はつ歩ぽと教おしゆ斯
 く普通ふつう學がくとあきあゝ七八年漸やく熟じゆくして又大學
 校がくへ入いるあり但たゞ一いっ小學校せうがく大學校だいがくへつゝめ々學校
 の大小おほいとつゝりべ只ただ高上かうじやうの學課がくを教おしゆると初學
 を教おしゆるとよつてあり大學校だいがくへ入いてよつハ各
 々志こころま所ところの學科がくへ移うつるつゝ譬たとへハ醫師いしとあらんと
 思おもは者ものハ醫學いびがくと學まなび兵家へいけとあらん者ものハ兵學校へいがく并

移るあり斯く六七才より初て學び十八九歳廿
 歳位と成業の年齢とを斯く兒童の時より日用の
 事を教るゆへ自分の國の地理歴史府縣の民口廣
 狭位のありを知らざる者も稀く下男下女の
 如く卑賤の者よても尚讀書一或ハ新聞紙を讀
 て時政の得失を評論一啞育人よても書翰の往
 答をも如く皆通例のありき英國にては
 年々新刻の書數四十五六百品と下らざり是と

以て文明教化の國たるをあるべし一文字
 の數多しと云ふ且文法の簡易ありゆへあるべし
 ① 毎日教授は朝九時より始り十二時と終り中
 食して又午後二時より五時まで稽古を稽古中
 最も嚴しく或ハ賜見一言語も亦如く
 皆夫々の罰を與ふ然れども其間と休の時
 間ありて必き遊ばしむ故に學校の傍よと必き
 遊園を設け花木を植一流川を引築山を拵ひ

遊戯奔走の地とあり休の間ハ皆ありて出て或
 ハ綱渡り一或ハぶらんお或ハ輪を回一鞠を投
 け四肢と運動一身体と健康とを之と「ジュニナス
 チ」しつひ又此遊を教ゆる先生ありて子供
 ハ必き此遊とありしむ故一苦學するしつと
 も身体健康ありし日本も現令ハ大抵此法
 を用ゆしども往古の讀書人と只勉強するのみ
 と知り養生とせざるゆへ大抵身体脆弱して勇

運動場生徒遊戯の畧



在り
 眞高学

あく無用の人とあれり是國家の爲して學問
 却て國家の厄わざとある實まことと愚おろその至いたとつと
 ○平人申合せ互たがひに金と出して學校を立て謝禮しやんらいと
 取らざ只貧乏人の子のみを教しやる學校がくり其外
 夜學校日曜日學校等其數尤澤山あまとして普魯士
 國あざり獄屋がくやの内うちにも學校がくりて三四日毎
 々罪人つみびとと出して教授きやうじゆする是と推おして教育きやういくの行
 届いたりるとあざり斯かく小學校せうがくより漸か々修業しゆぎやうし

階級かいきゆうと登進とうしんする毎ごとに必かならずに都府みやこの試檢しけん學校がくに至いたり
 學問がくの力の試檢しけんを受うて此者こゝろと何等あんの才學さいがくあり
 と云ふものの免許めんきょを受うるあり故ゆゑに此學校こゝろに
 裁判さいはん役議政官やくぎせい官諸先生しよせんせい方出席かたしゆきし書生しよせいと檢問けんもんし其
 免許めんきょを受うたる人の名なと政府せいふより出でし又新聞紙しんぶんに
 出でし國中こくちゆうより出でし人々ひとびと其免許めんきょを受
 け何等あん學生がくせいありし稱号しょうごうと得うると以もつて榮えいと
 き且かつ一等いとうの軍艦士官ぐんかんし官ありしと一等いとうの級きゆうと經へ

て一等の免許状と得たる者より少しづれハ成る
 ろと能うべ又村儒先生もも藪醫先生もも
 皆右の次第あり故に虚名と飾て人と惑はせざ
 如きの憂ひあり且大學校もも千種萬品の書と
 集蔵する文庫ありて自ら書籍と賸ふの心配あ
 り其外文庫博物館等ありて萬人の智見を弘む
 るの諸道具も更く欠乏あり

○文庫の事

文庫もも書物蔵のありて西洋各國の都府も
 皆此文庫ありて日用の書物圖画類もも古來萬
 國の書に至るまで悉く備り何人と論せば此庫
 に至りて讀むハ勝手次第あり但し毎日庫内もも
 讀むハ勝手次第ありも自家もも持歸るもも許さ
 ば佛蘭西の文庫もも百五十万卷余ありて此書
 自國もも新し出版するももはハ其書一部を文庫
 納めりて外國の書もも之を買入るあり此法現

今ハ日本も行りぬ新版書ハ皆三部づと官
 納め旧昌平校のよて書を集め何人よて
 も勝手拜見とて得ぬ其外街店ノ數書と
 集置と些少の見料と以て見せる所り實學
 問とて自由自在の世とてあま

○博物館の事

博物館とて世界萬國の産物珍物等々人の知見
 と博く物と皆之と集置く場所あり其内數

局に分る○書畫局とて古代始て字と考ひ一頂
 の書畫類のひと名哲の手筆珍奇異様の
 書籍類に至るよて之と藏ふ○古物局とて大古
 羅馬時代の佛像と多く陳列とてひと木石銅
 の彫像の其外古鏡古鐘古貨又と大古の城趾
 堀出し古瓦奇石武器類其外無數の古
 物を納む○動物局とて就中奇觀とて獅子象虎の
 如く大獸とて微細の虫魚に至るよて生あ

養つるものは各々其性に従て食物と與へ暖國
 の禽獸と暖く海魚と硝子器と入る時々新
 海水を與つて生あづる貯ふあづる生をとげざる
 りけを硝子の壺と入る藥酒を盛りて貯ふゆへ
 更く活物と異あるあづる斯く世界中の珍禽
 奇獸皆此内に入りざるものはあづる○礦物局と
 世界中の諸金屬瑪瑙珊瑚の類其外異石奇介の
 如きも皆其部を分て陳列を○今上りしる所

の諸品國內よりざるものは遠く海外萬國よ
 り寄集むるを以て珍奇の品殊く澤山あり斯く
 天下の奇物と集置る萬人の耳目と博くを上よ
 り下民の智識と弘めんとする深切至きとい
 ふべし○又醫學に屬する博物館と夫々室と
 分ち人体四肢を解剖しりしむひと骸骨を集め又
 ハ胎子と取り硝子の壺と入る醜耐を盛りて初
 月より十月までの形を示きりし其外動物

月より十月までの形を示きりし其外動物
 二七三

植物の内景又と長人の骸骨等一も備りしる
りはあしと

○博覽會の事

博覽會とて世界中の國產其外古今の品物等何
れも人の目し珍しきもの互に持寄り互
に見物して他の長き所を取り己の利とあそ
りて早く云一と智恵工夫の交易あり日本
よても昨年と旧昌平校文部省内に小博覽會あり

り當年々山下御門内よりあつて各々珍截する所
の物と出り古来より奇物近頃の新發明もは
其外千萬種の物品を排列て貴賤を論せし見物
と許され日々老若男女群集せし是れ一府に
設けたる博覽會あつても世界萬國より寄集る
博覽會あり之を開うんとする時を先づ廣大
ある厦屋を造營し一年も二年も前より萬國に
報告し各々其國の名産便利の器械舟車臺場の

博覧會の圖



模^{ひな}型^{がた}より時^{とき}計^{けい}農^{のう}具^ぐ馬^ま具^ぐ衣^い服^{ふく}化^け粧^{じやう}道^{だう}具^ぐ何^{なに}もひも
 古^こ代^{だい}より名^な器^き書^{しょ}画^が等^{とう}に至^{いた}るまで一^{ひと}々^{ごと}數^{かず}ふ
 うよび又^{また}禽^{いん}獸^{じゆ}草^{そう}木^{ぼく}あどハ大^{だい}庭^{てい}の中^{なか}にあめて或^{ある}
 ハ池^{いけ}と游^{あそ}ぶ籠^{かご}と飛^とせ奇^き花^{はな}妍^{げん}を競^あひ異^い鳥^{ちう}美^びと
 争^あふ又^{また}老^{らう}若^{じやく}男^{なん}女^{にょ}と論^{ろん}ぜば世^よ界^{かい}中^{ちゆう}の人^{ひと}々^{ごと}輻^{ふく}湊^{そう}
 博^{はく}く之^を展^{てん}觀^{くわん}を故^ゆり博^{はく}覧^{らん}會^{かい}とをいふあり此^こ觀^{くわん}
 場^{ばう}と開^{ひら}く沢^{たく}々^々各^{かく}國^{こく}の風^{ふう}俗^{じやく}技^ぎ藝^ぎも日^に々^{ごと}と替^かり新^{しん}
 規^きの發^{はつ}明^{めい}等^{とう}も隨^{したが}て多^{おほ}けき去^き年^{ねん}よりで便^{べん}利^りある

りけしつゝとも今、無用の物とあるあり多し
 故、各々長き所のみはと出し互に智慧を博
 り且都下を繁昌せしむるの方便あり抑々博覽會
 の創りたる彼の千八百五十三年 今より二十年前 英吉利
 の首府倫敦にて初めて玻璃殿と云ふ硝子
 張の觀場を造りし之ともども、其後佛朗西
 しても之に倣ふて觀場を開き又近く千八百六
 十七年佛朗西の都にて第二度目の博覽會あり

此時日本よりも種々の器械國産ハ申よ及む
 此輕業網渡茶屋女の類より茶屋なるもの多し人
 のある處あり此時の觀場の地面のひろさ々日
 本一して九十二丁四方此觀場を造營するの費用
 百四十万兩余あり是を以て其宏壯美麗あり
 あしと察せし一且萬國より其所々の芝居輕業
 茶見世の類に至るまで相聚るはゆる僅數十
 歩の地と徘徊せしむる萬國の風俗技藝を見真し

内務事務 卷之三 三十五

萬國と歴覽し來る異ありば實に天下の壯觀
 として一時都下の繁盛あるあり云々方々
 と又今年と 埃地利に大博覽會ありて萬事佛朗
 西の博覽會に倍するよ日本よりも多人數往
 きたりて右の人々帰國次第信に其様子も譯
 づ ○博覽會と大抵五六月の間にて此所に出
 せる品々會のまむまを買取るあり能ハざれ
 ども會中其持主と相談致し置る會濟の上ハ

賣買勝手次第あり又ハ入札して賣買するも

○新聞紙の事

新聞紙とも世間の新しき事柄を探索て之を記
 し萬人に報告するあり故に其便利あり
 と云ふゆゑに居あがり世間の珍事民間の情
 實政治の得失萬國の治乱を知り聞見を博く
 事情を明し文明を進むの一助なり ○

内務省 卷之三 二十一

候風雨の評説○新版の書目其外異事珍談を
て人の耳目に新らしき事ハ皆記載一或ハ圖画
を加つて之を示す故に彼邦よりて官報私報
も大抵新聞紙に出して知し其外富會無盡
の類の闡當りも大抵新聞紙に出して去りしむ
由て始より第何會目の闡當ハ幾日の新聞紙を
見るべしと云ふ斯く何事をも人毎に知らせ
ばして新聞紙に於て知るものもを以て極便

利あり○新聞紙ハ極安直り此して西洋の新聞
紙ハ日本の半紙六枚継位の紙に裏表字のりて
十五六萬語も何となく大抵日本に於て百文位
あり且新聞紙も早さと趣とをゆるゆと皆蒸氣器
械を以て摺出し一時の間と二万枚を得べし
○又開店の報告の如き私用を新聞紙に出す
んと思ふ時と新聞紙局に到り其頼む所の語數
を夫々の代金を拂ふべし

日本新聞 卷之三 二七

○新發明免許の事

西洋諸國^と市街村落^の論^{あり}博物館^を設^け
 置^人々^の聞見才智^を進^め萬事器械^を以^てあ^と
 と為^し一人^を以^て十人^に代^つんとする風儀^ゆ
 一新規發明^の器物^も隨^て多^し故^に官府^{より}も
 一^べーテント^と云^る役所^を立^て妙術奇器^等を新
 しく發明^せる者^は官府^{より}其發明^人のみ發行
 の免許^を與^つて他人^の倣造^{する}を防^ぐあり此

役所^{より}従来免許^を與^つて發行^{せる}發明^の器
 具^のひる技術^等を記^する目錄書^{あり}び^し新
 發明^の模形^を備^へ置^けり且此免許^の規律^も色
 々^{あり}是^れもす^べし人々^{自己}の才量^を以^て發明^し
 或^は外國人^の發明^して既^に世^に行^くるも
 の^うて^も之^を始^て國內^に受^け傳^へる者^{あり}其^れ皆
 夫々の等級^を定^め且元金^ハ何程^うなり其^れ功^用
 と幾^ん何^んといふ事^を鑒定^し或^ハ三年五年又^ハ十

年一番より十四年と年限を定め其發明
 人の名を銘し年限中の間と其發明せし者を其
 術又と其器の株主とあり之より印鑑を與へ役所
 の権を以て之を保護し其年限中ハ柱主の外安
 し他人の働造を得せしめ蓋し年限を立る澤
 と此年限よりてより他より一層より類器を發明せ
 るも此年限を以てあり又年限は長短を發明せ
 る時の元金を取戻し其上骨折を贖ふりとの利

分を得づるやりの歳月を計りて之を定むるあ
 り○日本人の風習を見ゆ古より諸藝を好む
 者多けども今之と西洋人の手際く比ぶると及
 むざる所あり似たり西洋人の技藝を講究を
 る様子と聞くと父志と起して果さざれば其子
 之と継ぎ其子之と仕くはざれば其孫す之と
 継ぎ遂に成業し至らざれば止むべし斯く刻苦
 勉勵する所以と則ち發明免許を與ふる役所の

うて一事を發明せれば其身ハ元一子孫に至るまで安樂ある故あり○凡そ新器の妙術を講習するハ大抵人情の好む所ある日本も随分之を為し心志を盡し甚しきに至りては財産を傾け身を貧究しあちつても嘗て悔ひざる者あり斯く心苦しき發明し得たるものは發明官許の法ある時々忽ち世上に流傳し肝心の發明せし當人より元手も取戻さぬもの

世上す之を以て許多の利を得るものなり況や新發明と為し程の人ハ大抵俗才乏しく日々の活計も無覺束程の者ゆへ其業ハ貴むれば其身も無益他人の重寶とあるのみ名も知れざる者あり西洋より右發明免許の法嚴重あるゆへ一事を發明し又を傳習せし者ありハ大なる利分を得るありゆへ國中の人々擧て憤勵し智巧を闘ハし奇巧簡便ある器械を發明

大艦と製し巨砲と鑄り橋を架け山を鑿り河
と撈つる如き大業より木を鋸り布を織り席
を組み紙を抄き粉を舂く如く鎖細の事業
至るまで悉く蒸氣器關を用ひりるひと奇功
器械を以て之とありてゆへ大に人力を省き其
捷速あるありしゆゆへ是則ち國を富むの
源あり我日本も現今も此法少く行りし
とゆへも今一際此法を盛大にせざん人民の財

藝俄く上達するありありと一假令萬國未曾有
の發明ハ出来むとも西洋人數百年の間心力を
盡して發明せし事を今學び傳ふるを容易の事
とありしゆゆへ初て傳習し其業を得るゆへ若
干の元金を費まづけしゆゆへ又若干年の間
り其利分を得るゆへ元金を取戻さのみありて
數多の利分を収むるありしを得べし斯く利分を
專らするありしを得せしむるハ第一傳習せ

内々書
青
三十一

一功^{コウ}一報^{ホウ}一所以^{ソウイ}一有^{アル}一右^{ミダリ}一之^ノ如^{カド}一第^{ダイ}一之^ノ傳^{デン}一習^{シユ}一者^{シヤ}一之^ノ數^{スウ}一多^タ一之^ノ利^リ一分^{ブン}一之^ノ見^ミ一バ^バ餘^{ヨリ}一入^ニ一も^モ一我^ガ一之^ノ競^{キョウ}一テ^テ新^{シン}一術^{ジュツ}一と^ト傳^{デン}一或^{シカド}一之^ノ發^{ハツ}一明^{メイ}一せん^{セン}一之^ノ欲^{ヨク}一我^ガ一之^ノ真^{シン}一鏡^{キョウ}一を^ヲ傳^{デン}一之^ノ我^ガ一ハ^ハ傳^{デン}一信^{シン}一機^キ一と^ト傳^{デン}一之^ノ我^ガ一之^ノ計^{ケイ}一を^ヲ造^{ゾウ}一之^ノあ^ア一を^ヲ習^{シユ}一之^ノあ^ア一皆^{カク}一々^{カク}一之^ノ心^{シン}一を^ヲ用^{ヨウ}一之^ノ様^{サマ}一々^{カク}一之^ノ妙^{ミョウ}一法^{ホウ}一を^ヲ傳^{デン}一習^{シユ}一或^{シカド}一ハ^ハ發^{ハツ}一明^{メイ}一之^ノ至^シ一之^ノ是^シ一國^{クニ}一之^ノ富^{トモ}一之^ノ榮^エ一之^ノ根^ネ一元^{ゲン}一之^ノあ^ア一之^ノ也^{ナリ}

池清

文明 内外事情卷之二終

